



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

今年のリトリートアシュラムでご奉仕くださったる飯能の山キリスト教会の中村稜牧師が、こんなことを書いておられる。  
「しかし、教会には孤独も必要です。私たちは一人で神のもとに、心の奥にある『暗闇』へと進んでいく必要があるのです」(『信じてもくるしい人へ』より)。  
人生に迷い、生活に疲れ、孤独に悩み、教会の門を叩く人たちは多い。  
しかし、最初からそこで喜びを見つけ、交わりに慰めを得、安心に満たされる、そんな素晴らしい体験をできる人は、ある意味珍しいのではないか。  
それよりはむしろ、期待したものは得られず、より一層孤独は増し、その寂しさは消えない。牧師の語る言葉も空疎に響き、聖歌隊の美しい賛美の声も、信徒たちの親切な振る舞いも、かえってその気持ちに萎えさせ、落ち込ませてしまうことになる。そんな経験をしたことのある人も多いだろう。

人もいるだろう。それよりも何よりも、自分自身がこの教会生活に砂を噛むような思いをしているのかもしれない。  
しかし、その時、私たちは、自らの心の奥に進み、『暗闇』に出あわなければならぬ。ここにこそ、光がある。  
今月選ばれた聖書箇所は、旧約聖書のイザヤ書で

瞑想

災いだ、悪を善と言い、善を悪と言う者は。彼らは闇を光とし、光を闇とし、甘いものを甘いとし、甘いものを苦いとする。

主幹牧師 榎本 恵

イザヤ5:20

その神の言葉を聞き、王からはじめて全ての民の悔いの声を求めた。しかし、その声に従う者はいなかった。  
その中で、イザヤは、預言する。  
「災いだ、悪を善と言い、善を悪と言う者は。彼らは闇を光とし、光を闇とし、甘いものを甘いとす、甘いものを苦いとす」(イザヤ5:20)と。  
イザヤは5章8節から22節まで、6つの災いを語る。それらは、特に「都市貴族の横暴な姿を描いて、審判を告知する」(新共同訳註解)。  
土地の独占、飲酒、乱痴気騒ぎ、神への不遜、曲げられた裁き。これらのものが、「災いだ」との言葉をもち、預言者によって厳

しく断罪され、その罪の原因は、「イスラエルが聖なる方の言葉を侮ったからだ」(イザヤ5:24)と結論づけるのだ。  
神の言葉を侮るとは、まさに、善を悪と言い、光を闇とし、甘いものを甘いとすることにほかならない。それは神を自分本位の神にし、自分の呼びたい時に現れ、自分の願っていることに応え、自分の希望していることが叶えられる。そんなご都合主義の神なのだ。  
しかし、そのような神は、どこにもいない。いや、しかし、おられるのだ。わたしたちが見出しさえすれば。  
その方は、悪の只中で善を語り、闇の中で光輝き、苦さの中に、甘さを与える。友よ、教会が、時に、辛い場所に思える時がある。他のところがよっぽど明るく楽しく豊かに見えるときがある。大勢いる中で、孤独や哀しみを味わうこともある。けれども、そこに神がいないのではない。  
「昼のお星はめにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものもあるんだよ」  
(金子みすゞ『星とたんぼ』)

# 第30回盛岡秋田アシュラム 主題「魂の恵み」

●30回目  
盛岡秋田アシュラムは、今年で30回を迎えることが出来ました。これは奇蹟に近いことです。主題は「魂の恵み」でした。

開催日は5月3日(火)〜5日(木)の2泊3日でした。この3日



朝祈会の皆様と合同祈禱会

短期大学部元宗教主任の鶴丹谷三千代牧師が引き継がれて、岩手の地で30年間開催できましたのは、驚くべきことです。何よりも鶴丹谷三千代先生や皆さんの祈りに神様がお応え下さったお陰です。同時に毎年変わりなくご支援下さった近江八幡のアシュラムセンターの方々のお陰です。

榎本恵牧師は毎年、盛岡に来られた際に、盛岡市内の教会の聖日礼拝説教のご奉仕をして下さり、伝道と主にある地域との交流を深めて下さっています。内丸教会、館坂橋教会、下の橋教会、などです。



早天祈禱会、アシュラムセンター祈禱会の皆様とZoomで共に祈り合やす事ができ、感激の朝！

**角谷師より**

31回のアシュラム開催に希望抱いてるとのお便りあり。恵師も心奮い立っております！共にお祈り願います。誕生日カード御礼文も届きました。

主にあつてアシュラムを通して全国の兄弟姉妹が連なっていけますことを感謝申し上げます。



(盛岡仙北町教会)

りました。会場は、近年は盛岡市繋の癒しの宿「ロデム」です。以前は国保会館や岩手青年の家など、各所でした。

今年の3日間の「静聴」は、ヨハネの手紙I、同手紙II、同手紙IIIを読んで祈り、分かち合いました。

出席者は鶴丹谷三千代先生、金田一姉、岡田兄、角谷の他、東山牧師夫妻の少数ですが、コロナ禍の下で感謝をもって終えました。

## ●アシュラムセンター

この30年間、常にアシュラムセンターが背後で支えて下さいました。アシュラムセンターから最初は田中主幹牧師が毎年、盛岡へおいで下さってご指導下さいました。また、村瀬牧師も何回かおいで下さいました。榎本恵牧師が沖繩から帰られ、主幹牧師になられて以後は、榎本恵先生がご奉仕下さっています。

## ●盛岡朝禱会

超教派の「盛岡朝禱会」は、細川泰子先生が数十年前に始められた祈り会です。毎年アシュラムの第2日目の朝は、盛岡朝禱会と合同の「礼拝・祈禱会」を開催しております。

今年、5月4日(水)の朝7時から7時50分迄で、司会は水田賢次牧師が担当され、榎本恵牧師による奨励で、その後で全員が祈

# (広野祈りの家) 猪瀬和子姉への哀悼の辞

アシユラムセンター主幹牧師 榎本恵



2017年

阪神アシユラムもとても大切に、欠かすことなくご参加。亀井姉(猪瀬姉左)と共に天から見守って下さいね。(今泉兄(後列中央)、早天祈祷会の友に。猪瀬姉に祈られ…)

驚く私たちに、ご自分の体を癌が蝕んでいること、そしてこの後、ホスピスへ入り、最後の時を迎えることを淡々とお話しなさいましたね。あの気丈な、そして凛とした気高いあなたの姿とお声を、私は忘れることができません。みなさんがお帰りになった後、残った私と妻、そして次男を前にし

「おばあちゃんはね、死んだら天国へ行くのよ。その時はね、天使たちがラッパを吹き鳴らして、おばあちゃんを迎えてくれるの。今から、そのラッパの音色がどんな音か楽しみにしているのよ」。

今年5月21日、広野にあるご自宅で開かれた最後の「広野祈りの家」の集会の後、あなたは、お孫さんとの会話を、こんなふうにご話してくれましたね。居住まいを直し、参加していた20名余りのアシユラムの友に向かって、あなたは、「これでもうみなさんとお会いすることはないでしょう」とキツパリと言われ、深々と首を垂れられました。

て、問わず語りに語られたのが、最初に申したラッパの音色のことでした。「人の子は、大きなラッパの音を合図にその天使たちを遣わす。天使たちは、

天の果てから果てまで、彼らによって選ばれた人々たちを四方から呼び集める」(マタイ24:31) この主の言葉をあなたにまっすぐに、何の疑いもなく信じきっていらしたのですね。

あの日から、ちょうど4ヶ月。あなたはきっとあの天の向こうで、鳴り渡るラッパの響きに聞き入っておられるでしょう。ホスピスに入られてから、私は何度か病床を訪ねさせていた

いただきました。最後は、今月10日の土曜日でした。わずか15分の決められた面会時間でしたが、ベッドに静かに横たわっておられたあなたは、私のことをわかって

おられ、「先生、主の祈りをしてください」と言われたのが、私の聞いた最後のあなたの言葉でした。そのお顔は、本当に美しかった。肌艶は、もう輝いているように、髪の毛も心なしか黒くなられたような気がした

ほどでした。けれども、もうあの頃から容体は良くなかったのです。そのような中で、天の御国を仰ぎのぞみ、その魂は実に清いものでした。

あなたが、最後に残してくださった、アシユラム誌の原稿には、こんな言葉が書かれていました。「1ヶ月以上前に、私は

医者から胃がんの末期でもうなすすべもないと告げられました。その瞬間に「あー素晴らしい楽しい幸いな人生であった！」この思いが心の中に火がついたように灯ったのです」(アシユラム誌2022年7月号)と。

それからの数ヶ月のホスピスでの生活は、まさに主にある平安と喜びに満ち溢れたものであったに違いありません。

そんなあなたのことを思い起こしながら、私は一人の医師のことを思い出していました。死を目前にした多くの患者からの聞き取りを通し「死ぬ瞬間」という名著を著したエリザベス・キューブラー・ロス博士のことです。「否認」、「怒り」、「取引」、

「抑うつ」、そして「受容」。死を前にした人々が通る5つのプロセスを、彼女は明らかにしました。そして彼女もまたその自分の死を目前にして、苦しみ悶えるのです。しかし彼女は、最後に全てを受け入れます。

「死の瞬間は素晴らしいものです。自由への解放なのです。蝶がサナギから抜け出すように、人は身体から抜け出すのです」彼女は、最期にそう語りました。

召された後、家族の手によって作られた彼女の墓碑銘には、こんな言葉が刻まれています。「人生を卒業し、今、銀河でダンスを踊る Dancing in the Galaxy」。

猪瀬和子姉、あなたは今、どうしておられるでしょうか。あなたはきっとあの天上の音楽に、そのえも言われぬ美しいラッパの音色に聞き入っていることでしょう。懐かしいご主人や先に逝った友と共に。

そうです。私たちもいずれ、そちらへと行くのです。「最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちです。ラッパが鳴ると、



〈誕生日カード御礼の便りより〉びっくり！札幌から兵庫、日本の各地の皆様、感謝申し上げます。私は一度もお会いして  
ませんのに、愛の皆様方、また私の夫を覚えていて下さって感激です。。大森和子(新潟アシラム)

死者は復活して朽ちない者とされ、私たちは変えられ  
ます(1コリント15:52)。  
パウロが語った、復活の神  
秘、私たちもまた、そのラッ  
パの響きを心待ちにする一  
人一人なのです。

今、私たちは、この地上  
でもう、あなたに会えなく  
なったことを、悲しみ、嘆  
いています。しかし同時に、  
私たちは、知っているのだ  
す。あなたが何を見つめ、  
何を聞いていたかを。

そして私たちもまた、あ  
なたが話してくれた、この  
悲しみの向こうにある、素  
晴らしい、楽しい世界を仰  
ぎ見るのです。

あなたが最後に書き残さ  
れた、言葉を紹介し、私の  
哀悼の辞を閉じさせていた  
だきます。

「小さいものの祈りを聞  
く方は大きな方です。人  
にはできないことも、神に  
はできる。その神様が祈りの  
相手ですから。必ず叶えて  
くださると信じて祈り続け  
て参りましたら、思いに勝  
る祝福が与えられ感謝で  
す。必要を満たしてくださ  
る神様を信じて、アシラム

ムのことも教会のこともお  
祈りいたします。私の証を、  
皆様にお届けできることが  
今、何よりの喜びです。」  
(アシラム誌  
2022/7月号)

猪瀬和子姉、本当に長い  
間ありがとうございました。

2022年9月24日



年頭アシラム(2019年)  
廊下でのお交わり



年頭アシラム  
またまた廊下でお交わり!



センター聖書教室、るんるん福音食堂愛  
餐の時。写真中央は、長峰母娘様、ご遠  
方からのご参加。左は、樋口兄(福岡)



静岡聖書教室、午後の部。池谷治朗  
兄の召天一年記念前日。寿子母(前列  
右)のご参加に治朗兄もきっと笑顔!

この一年も皆様の祈りに支えら  
れながら歩ませていただけると思  
うと、心に温かいものを感じ、励  
まされます。

私も皆様、特に和子お母様のこ  
と、祈ってまいります。…また妻  
と共にシメオンの家を訪ねたいと  
願っています。 下村 徹嗣師

亡きあとも

夫の努めし業を祈る  
祈りの人は百歳近し

小林 佳子姉

歌集「であい」

第三集より



小林茂男、佳子ご夫妻と。  
(2017年 年頭アシラム)



和子母、センター庭にて、花摘  
みや草取り、今日はドクダミ!干  
して薬草茶に。30日97歳!皆様の  
お祈り感謝します。

あとがき

早いもので今年度も  
終わりを迎える。この  
1年間も、いろいろな  
ことがあったが、皆  
様の祈りとお支えに  
よ、主の祝福に満ちた  
1年を送ることができ  
た。本当に感謝である。  
さて、11月の終わり

には、第2回目の「ア  
ンナ祈りの家、シメオ  
ン黙想の家」を用いて  
のリトリートアシラム  
が行われる。また  
2023年の、第47回  
の年頭アシラムの案  
内も始まった。

どうか、この新しい  
年のアシラムセン  
ターの集いが祝される  
ように、お祈り下さい。  
また、どうかご参加い  
ただけるようお願いし  
ます。

この3年余りの間、  
顔と顔を合わせての集  
会が困難な時でした  
が、暗いトンネルの先  
の光が見えてきてい  
る。どうか、希望の光  
を信じ、共に出会い、  
共に賛美し、共に御言  
葉に聞いていこう。(恵)

第2回リトリート

アシュラム  
ASHRAM

主題：消されない灯火  
彼は傷ついた筆を折ることもなくくすぶる灯火を消すこともない。  
マタイ12:19

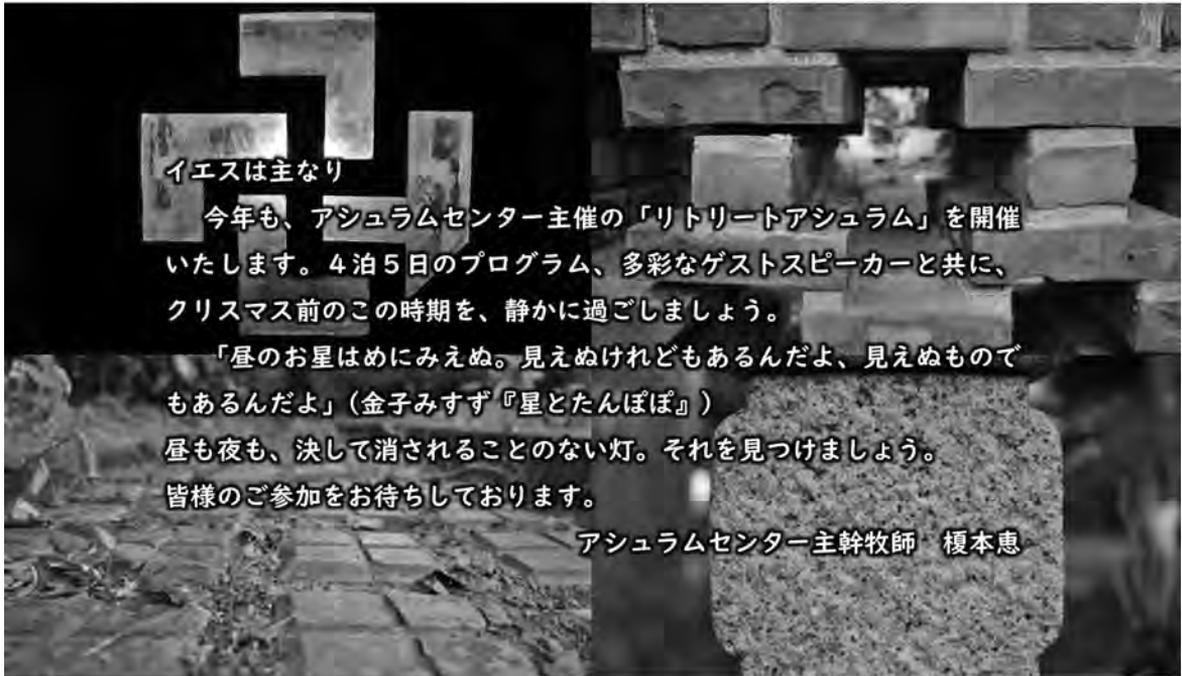


日時：2022年11月28日(月)～12月2日(金)  
場所：アシュラムセンター、アンナ祈りの家、シメオン黙想の家

定員：10名(部分参加できます。宿泊の関係で、各曜日10名になり次第締め切ります)  
会費：38000円(全日参加) 部分参加は1泊12000円(※宿泊無しの部分参加 1講座 2000円)

講師(敬称略)

- |          |           |                                  |
|----------|-----------|----------------------------------|
| 11/28(月) | ジェームズ・サック | ルーテル学院大学教授                       |
| 11/29(火) | キャロル・サック  | 米国福音ルーテル教会宣教師、リラブレカリア            |
| 〃        | 榎本 空      | ノースカロライナ大学チャペルヒル校博士課程            |
| 11/30(水) | 中村 穰      | 飯能の山キリスト教会牧師、聖望学園、自由学園講師         |
| 〃        | 武田 光世     | ラピリンズウォークジャパン                    |
| 12/ 1(木) | スコット・マーレー | 日本聖公会聖アグネス教会司祭、家具工房TEKTONHOUSE主宰 |
| 12/ 2(金) | 上内 鏡子     | 日本基督教団神戸イエス団教会牧師 合同平和祈禱会         |
| 〃        | クリスマス愛さん会 | 大山謙一(みんなのカフェちいろばシェフ)             |



イエスは主なり

今年も、アシュラムセンター主催の「リトリートアシュラム」を開催いたします。4泊5日のプログラム、多彩なゲストスピーカーと共に、クリスマス前のこの時期を、静かに過ごしましょう。

「昼のお星はめにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ」(金子みすず『星とたんぽぽ』)

昼も夜も、決して消されることのない灯。それを見つけましょう。

皆様のご参加をお待ちしております。

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

アシュラムセンター

〒523-0894 滋賀県近江八幡市中村町567-2  
TEL 0748-33-4030  
FAX 0748-33-8856  
<https://www.ashramcenter.jp/>



中止、又はオンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。  
直前の変更の場合あり!

11月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
1(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)	
4(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)	
12(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)	
14(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)	
14(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)	
15(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)	
16(水)	みんなのカフェいろいろ聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	
18(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)	
20(日)	いろいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)	
21(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)	
22(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)	
22(火)	しみじみの会 (桜美林大学 荆冠堂チャペル PM2:30)	
23(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)	

11月のアシュラムなど		
2(火) 4(金)	第47回 京浜アシュラム 八王子大学セミナーハウス 奉仕者 岩波 久一師	048-789-1325 加々美美師
17(木) 18(金)	第44回 阪神アシュラム シメオン黙想の家・アンナ祈りの家 奉仕者 榎本 患師	0748-33-4030 アシュラムセンター
28(月) 12(2)金	リトリートアシュラム <b>5ページをご覧ください!</b>	0748-33-4030 アシュラムセンター

2023年1月以降のアシュラム予定

**第48回 年頭アシュラム**  
会場：琵琶湖コンファレンスセンター

1/19(木)  
21(土)

詳しくは案内チラシで!  
ご参加、お待ちしております!




←猪瀬母娘様、お食事準備中! 広野祈りの家 集会前。2017年12月。



←2019年10月。国際正義平和アシュラム in 札幌。幡江姉、石垣師、池谷兄、猪瀬姉。何と貴重なひととき!

### みことば

ノースカロライナ大学院生  
Zoom聖書と学ぶ会  
榎本 空

神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。

ヨハネの黙示録21章4節

2歳の次女はよく泣く。姉と喧嘩しては泣き、お菓子を食べたいと言って泣き、ふざけて走り回って、どこかに頭をぶつけて泣く。こんなことを書いている間も、隣の部屋からは彼女の泣き声が響いてくる。

もちろん、目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる神様が都合よく現れるわけもなく、抱っこしてみたり、おだててみたり、お菓子をちらつかせてみたり、こちらは思いつく限りを尽くして、どうにか泣き止ませようと必死だ。まったく、こちらは涙する間もない。

そんな時、「神の前で、神と共に、神なしに」なんていうボンヘッファーの言葉を思い出す。

結局のところ、神は、私たちが期待するような魔法の杖ではないのだろう。勇気のあることだが、そんな神は忘れてしまわなければ。ボールドウィンが言うように、「神は私たちの責任」なのだ。

同じところで、ボールドウィンはこう言っている。「神の唯一の希望はぼくたちなんだ。ぼくたちがちゃんとしなけりゃ、神様だって、どうしようもないんだよ」。

そんな言葉を励みに、私は今日もぐずぐずの娘と向き合う。



筆者のおやつ、シークワサー!。種は阿波根おじい。戦争の後始末。「上の実は鳥達のために残しておきなさいね。」と言われていた。

日本FBCラジオ放送・インターネット放送  
(火) いろいろば牧師榎本保郎説教選(再)  
(水) 石垣弘毅牧師(日基中標津伝道所・札幌アシュラム) (←左下写真)  
10月〜来年3月 夜9時30分